

みのりの小道通信 2018年8月号

ミニ学術植物園「みのりの小道」を活用した
「学生・地域とともに育ち、歩む大学」づくり

島根大学(松江キャンパス)松江市西川津町 1060
TEL : 0852-32-6492 (生物資源科学部 事務室)
Email : yamagishi.kazuto@gmail.com (山岸)
平成 30年 8月 7日 発行

先週見た TV ドラマで以下のシーンがありました。「子どもはよくケガをするけどその分、治りも早い。それは何度もケガをすることで、痛みを知るため。それで、他人の痛みも理解できるようになる。だから治るケガならたくさんした方がいい。」 その通り！です。

前回(7月11日)第164回公開作業

主な実施内容(Do)

参加者 42名(一般6名、学生29名、教職員7名)で行いました。

できる作業・体験等: 体験_ジャガイモ収穫 試食_ヤマモモジャム 体験_カンパ箱を竹でつくる 体験_ちょうどいい賑わいづくり(ブルーベリー周囲) 見学・作業_半月状畑の管理・ダイズ観察 紹介_ドライブケーキ 体験_アズキ播種 体験_緑肥作物の播種 体験_焚き火 作業_野外卓のヒマラヤスギ葉の除去

みんなでやる体験・お話等: 観察_ソーメン&ブルーベリー&ヤマモモ流し 試飲_ヨモギ茶 お話_生資学部学習サポーターの活動 お話_園芸同好会の活動 紹介_報告_どげなかねえ? 私たちのエネルギー 告知_島大総合博物館夏季企画展 #カিজウ展 交流_みのりの小道通信の発行

<ジャガイモ収穫 緑肥作物播種 竹ネームプレート設置>



アンケート結果等1(Check&Action)

- ・体をどのくらい動かしたか; 極小 26% 小 4% 中 26% 多 30% 極多 15%
- ・本日の活動に満足したか; そう思う 85% 少しそう思う 4% どちらでもない 11% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%
- ・印象に残ったもの(複数回答); 園芸同好会のお話 27% 島大エネルギーの会のお話 27% ヤマモモ試食 23% ジャガイモ収穫 15% ブルーベリーの草刈り 12% 流しそうめん 12% ブルーベリー試食 8%
- ・本日のみのりの小道を一言で表現すると? ; 収穫祭、ヤマモモ、積極的、涼しい、色んな人が集まる時間、涼しくて穏やか、自然と触れ合う、夏、季節を味わう、ヤマモモ美味、自然を体感できる場所、農作業の知識、楽しい集まり、ソーメン流し、和み、竹、安らぎ、体験の小道、よく動いた、自然と共に活動、'楽しくて'大雨で被害にあった方々ごめんなさい

アンケート結果等2(Check&Action)

【園芸同好会のお話】 松江駅前をきれいにするのは良いこと。以前、駅前通りの草抜きをしていると、業者の仕事をとったらダメですと注意されながら、それでも草取りしていたことがあった。色々なものをリサイクルして面白いものや肥料をつくっていて興味深かった

【農作業】 久しぶりに畑を耕すなどの農作業を行って、楽しく気持ちよかった。ジャガイモを掘る作業の中で、虫や草や根など、身近にいるはずなのに普段触れない生き物、植物と共に生きている感じがしてとてもよかった。毛嫌いせずに、自然と共に活動したいと気持ちを改めた。ジャガイモはほぼ自然の雨で育ったのにも関わらず植えたものより大きくなっていて感心した。アズキの出芽が楽しみ。ハトに見られたので心配だ。口に入る物が作れるのはすばらしい

【交流】 普段あんまり自然に触れることも年配の方とお話することもないのでとても楽しかった。学生の人がたくさん来て色々な活動ができて良かった。色々な話や人が集まって充実して楽しかった。学生の参加者が多くにぎやかになってよかった。みんなで共同作業で協力できてとてもよかった。多くの学生が参加してくださり、元気をいただいた

【季節】 季節を感じることができうれしく思った。真夏だったが、木陰で風を感じることもできた。猛暑の中、別世界のような爽やかな風が吹き、本当にホッとすることができた

【要望・希望】 近頃、災害が多いので、サバイバル的な何かがあると助かるなと思った。コスモス畑づくりを計画しようと思う。7月中にはコスモス植えを实行したい

ハトに種まき作業をすっかり見られた影響なのか、アズキの出芽状況が芳しくありません。少雨も深刻ですね。

前は、発表してくれたサークルや団体のつながりもあり29名の学生が参加してくれました。

木陰でそこそこ風が吹いていると気持ちがいいです。木陰&風はすごい!

今回(8月7日)第165回公開作業 主な計画(Plan)

できる作業・体験等:

体験_ブルーベリー収穫 試食_ジャガイモ・スイカ by 花崎・西澤(学生) 体験_ちょうどいい賑わいづくり(ブルーベリー周囲) by 山岸(一般) 観察・作業_半月状畑の管理・アズキの出芽状況 by 花崎・岡部(学生) 体験_焚き火 体験_竹スプーン・竹カップ・竹カンパ箱作り for アイスクリーム by 学生 見学_#カিজウ展@島大総合博物館 by 田中(職員) 作業_野外卓のヒマラヤスギ葉の除去

みんなでやる作業・お話等:

試食_ブルーベリーアイスクリーム by 花崎(学生) お話_経済性の高いアユ養殖を目指して by 次橋(学生) お話_シマミズとフトミズ by 森田(学生) 報告_授業「栽培実習で学んだこと」 by 小椋・松本(学生) 報告_幼稚園生がアイガモを田に放つ by 藤林(一般) 交流_みのりの小道通信の発行 by 山岸(一般)

6月上旬にカモの雛を田に @福間農園(八雲町)



次回の公開作業等の予定(Plan)

第166回: 11月21日(水) 14:00~16:00: ザクロ・カキ採り ヤーコン・キクイモ・アズキ収穫 ナツメ・ブルーベリーの加工品試食 焚き火 落ち葉集め&落ち葉堆積場づくり

今後は年に4~6回程度の不定期開催予定です!



この写真はポイント対象です。

【お話】経済性の高いアユ養殖を目指して by 次橋健太郎(生物資源科学研究科 環境資源科学専攻)

アユ(Plecoglossus altivelis)は我が国の主要な内水面水産資源の一つであり、古来より食用のみならず文化的、社会的に大きな関りがある魚でした。しかし、近年では天然のアユ個体数・漁獲数は著しい減少傾向にあり、内水面漁業の急速な衰退が懸念されています。そこで、水産資源を一時的あるいは恒久的に施設で育成する「養殖」がアユの市場への供給源、または放流による自然群での個体群維持などの重要な役割に担っています。しかし、アユ養殖は経験的要素が多く、依然として経済性の追求には大きな余地が残されていると言えます。

そこで、斐伊川漁業協同組合と協力して、より経済性の高いアユ養殖の管理手法の導出と実現可能性の検討を行っています。現在は、近年のアユの成長データや成長曲線などから、グラフをプロットし、年度間の差が大きい個体成長率や平均最大体重などの平均的な挙動や揺らぎの解析を進めています。今後の展望としては解析結果からアユの成長が含む揺らぎを定量化し、実現可能なアユ養殖の管理手法への応用を目指しています。

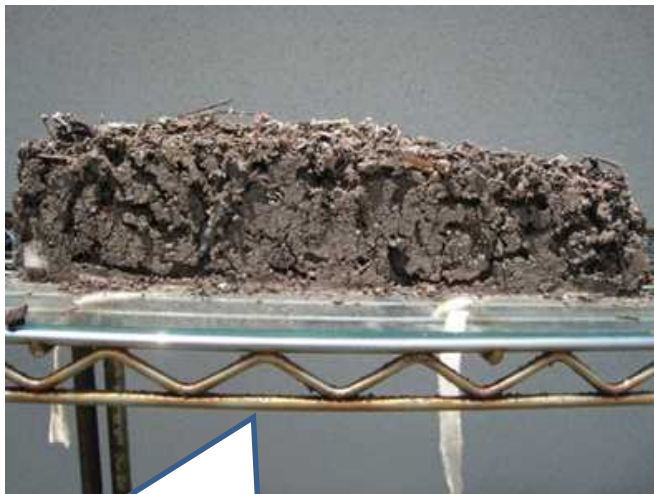


写真：アユ(斐伊川漁業協同組合が撮影)

【お話】シマミズとフトミズ by 森田星希(生物資源科学研究科 生態環境コース)

喜多研究室で屋上菜園における栽培促進へのアプローチとしてシマミズとフトミズの研究をしています。現代の農業では、機械化が進み、肥料などの開発にも伴いミズの力を借りずともおいしい作物をいっぱい作ることができますが、屋上菜園に関しては、機械の導入も困難で、さらに、屋上菜園で排出する植物残渣の処理や管理などでも手間がかかります。そんな課題をミズの導入で改善できないかと考えています。シマミズは有機物を堆肥化する働きを持っており植物残渣の処理に活躍できると考えています。さらに、堆肥を混ぜた土は植物にとって非常に有益であることが分かっています。そして、フトミズは、土壌改良に優れている生物であるので、それらをうまく組み合わせることで屋上菜園での栽培促進ができないかを日々考えています。

しかし、ミズの生態はまだ詳しく知られていません。もし、シマミズやフトミズの生態をもっと詳しく紐解くことができれば屋上菜園だけでなく農業界や家庭菜園にも影響をもたらすのかもしれないかもしれません。これまで、ミズの土中での含水率への好みや土の種類での行動の比較、餌への好みや温度での行動の変化など様々な視点からシマミズやフトミズの生態を見てきました。私自身、この研究を始めて4年目になりますが、まだまだ驚かされることばかりで毎日充実した日々を送っています。私は、来年度から高校の教員として働くため、研究できるのも残りわずかとなりました。最後まで彼らの力を信じ、これからも真剣に向き合っていきたいと思えます。



フトミズを飼育した土を乾燥させて固めた後の写真です。孔と呼ばれる水や酸素の供給のための道筋を作り、上側には糞をして土壌の攪拌を行います。



シマミズが住みかを選択する実験の写真です。牛糞堆肥、赤玉土、ココピート、腐葉土を用い、シマミズがどれを選ぶのかを繰り返し実験を行っている様子です。シマミズは、ココピートと腐葉土を特に好み、牛糞堆肥を頑なに嫌いました。

【報告】授業_栽培実習を受講して by 小椋滉平・松本裕汰(教育学部)

自然にあるものを生かすような遊びや栽培をすることで、例えば竹林から取ってきた竹で弓や鉄砲、皿や箸と言ったようなものまで作ったり、畑での栽培でも雑草を残さず刈り取るのではなく倒したり、冬雑草は多少残したりなどしてちょうど良い環境を作ったりすることを学び、何かを用意したりすることだけでなく、自然にあるものを有効に活用することの重要性を学んだ。

授業を通して私が変わったと思うことは、植物の一つ一つを名前のあるものとして捉えることができるようになったということである。これまでは、キュウリやトマト、スイカといった人間が食べるために栽培されている植物のことは認識があっても、雑草は雑草として無意識のうちに十把一絡げにしていた節があった。しかし、この栽培実習では作物を育てるだけでなく、イタドリで笛を作ることやセイタカアワダチソウで泡遊びができること、とにかく竹でなんでも代用することなどを経験し、普段見落としている植物にもきちんと名前と特徴があるということ意識できるようになった。食べる食べられない、役に立つ立たないなどと分類をして「雑草」にしてしまっていたのは、植物について知ろうとしなかった自分だったのだと改めて思った。このように、対象のことをよく知らないままに役に立つ/立たないなどと分けてしまう考え方は、植物に限らず人間関係を築いていくうえでも大事な考え方だと思う。私は技術科の教員として子どもたちに「技術」だけではなく、私が今回感じたような自分の生き方にかかわる考え方や気持ちも伝えていきたいと強く感じた。